

坂井建雄●著

標準解剖学

評者 町田志樹

臨床福祉専門学校・理学療法学

医学の専門教育は人体の構造を学ぶ解剖学から始まる。その事実と異論を唱える者はいないだろう。当然、理学療法士の養成課程でも同様であり、現職者であれば誰もが一度はその習得に苦心した経験があるはずである。特に近年、学生からは「各部位の名称を覚えることができない」、「運動器の位置関係を理解できない」という声をよく耳にする。また、理学療法士の養成課程で用いる解剖学書は養成校ごとに異なっており、スタンダードとして用いられている一冊は定まっていない印象を受ける。

このたび、医学書院より『標準解剖学』が発刊された。本書の著者は順天堂大学大学院教授の坂井建雄先生である。この事実こそが、本書の第一の特徴と言えるだろう。坂井先生は日本の解剖学教育・研究の第一人者であり、これまで数多くの解剖学書の執筆に携わっている。その執筆の領域は医療従事者やその学生を対象とした専門書のみならず、一般向け・子供向けの書籍など、極めて多岐にわたっている。本書にはその知見が存分に生かされ、解剖学の初学者から現職者までが学ぶことのできる一冊に仕上がっている。

また、各章が極めて正確かつ簡潔に記述されており、“最小限かつ最重要”に構成されている。この点は、解剖学の習得に苦心する学生たちの大きな一助となるだろう。

本書の第二の特徴は、美術修士・医学博士の阿久津裕彦氏による美しい図譜である。本書の図譜は、阿久津氏が新たに作成したものである。芸術と解剖学の両者を知る阿久津氏の図譜の緻密さと正確さに、ぜひとも着目していただきたい。

ここまで広い範囲を網羅し、多くの図譜を組み込み、かつ必要最小限にまとめられた解剖学書は他に類を見ない。「標準」の名のとおり、今後の解剖学教育のスタンダードになっていく一冊だと確信する。

近年の学生は、文章を読むことを怠る傾向にある。しかしぜひ、学生諸君には坂井先生の素晴らしい文章に目を向けてほしい。その洗練された文章の奥に、われわれの臨床に役立つ大きなヒントが隠れているはずである。



●B5 662 頁

定価：本体 9,000 円＋税
医学書院刊、2017 年